

戦間期イギリスにおける精神医療の統治性

—クライバリ精神病院におけるソーシャル・ワーク—

高林 陽展 (清泉女子大学)

はじめに—規律化から生権力／統治性へ—

フーコーによる「規律化モデル」と「統治性モデル」

①規律化モデル(17-19世紀): 精神病院に狂人を監禁し、正常な人間にふさわしい規律を再教育
精神病院以外の例: 学校、軍隊、監獄

②生権力／統治性モデル(20世紀-): 施設監禁を高コストとし、施設外で効率的な治療・社会復帰促進を目指す
精神病院以外の例: 公衆衛生官、保健所、学校保健医、学校診断、医療保険、家庭訪問員、母親クリニック

⇒ 問い: 20世紀前半イングランドの精神病院では、患者は精神医学の権力の下に服していたのか? 生権力／統治性は貫徹されたのか?

アプローチ: クライバリ公立精神病院におけるソーシャル・ワーク記録の分析

ソーシャル・ワークの発展と統治性

(1) クライバリ精神病院におけるソーシャル・ワークの展開

①背景: 19世紀後半以降、精神病院の過剰収容問題から施設主義への疑念が高まったこと
※施設主義: 施設への入所・入院によって、貧困、疾病、犯罪等の解決を模索すること

②クライバリでのソーシャル・ワークの開始

開始時期: 1936年

要員: ソーシャル・ワーカー1名

報告件数: 132件 (1936年-37年)

(2) 事例分析

事例① 1936年、36歳の女性患者。ロンドンのハームズミスに居住する裁縫工。1929年10月入院。身寄りの家族は母親、姉(もしくは妹)、二人の兄弟。母親へ一定の金銭的援助(姉は週25シリングの給料)、週10シリングの未亡人年金、国民健康保険から週3シリング6ペンスの給付、自宅家賃は週9シリング(月18000円)。週38シリングの収入(月収8万円相当)、母親は、狭い住居での看護に大きな不安も、自宅の整頓状態、家族の既往歴はなし。仮退院へ。

事例② 1937年2月、22歳の男性患者。鉄道会社のメッセンジャー。世界恐慌の影響を受け、失業し、交際していた女性とも破局。母親が食中毒に倒れ、家事や看護に追われ、精神的なバランスを崩す。自宅の生活環境は十分。調度用品にはピアノやラジオを持っているほど。部屋数も十分であり、家庭の収入も週あたり2ポンド9シリング6ペンスと比較的裕福。仮退院へ。

⇒ 過剰収容問題の解決のために、自宅看護が可能な患者は仮退院へ。施設財政の観点から仮退院を推薦。患者とその家族の保健のため、施設主義のコストを削減するため、「医学の名において」「各家庭にどんな設備が備わっているかを見に来る」より細かな健康と生活の監視ネットワークが構築。

<<生権力／統治性の具現化?!>>

事例③ 1936年8月、女性患者。狭小住宅。ダブルベッドで彼女と母親、夫と子どもはキッチンで寝ることに。入院継続。

事例④ 1936年10月、女性患者。近隣住民が仮退院に否定的。入院継続。

事例⑤ 1936年11月、女性患者。近隣に友人が複数あり。子どもの面倒を見てくれるほど。仮退院。

事例⑥ 1937年1月、女性患者。夫が同居への不安。近隣住民が患者のことをゴシップ話にする。入院継続。

事例⑦ 1936年11月、33歳の女性患者。夫はメッセンジャー。子供一人。自宅環境や家計の点では不安材料はなし。夫の収入は週2ポンド15シリング(月収10万円弱)、家賃15シリング(3万円相当)、親族が近隣に住み、その他の近隣住民も協力的。彼女が近隣住民の配慮を気にする性質。近隣住民に監視されているのではないかと不安。入院継続。

⇒ 家族利害への配慮: 家族や近隣住民の意向を常に確認して、仮退院を決定。

<<個別的な利害を汲むもの、統治性は貫徹されず?!>>

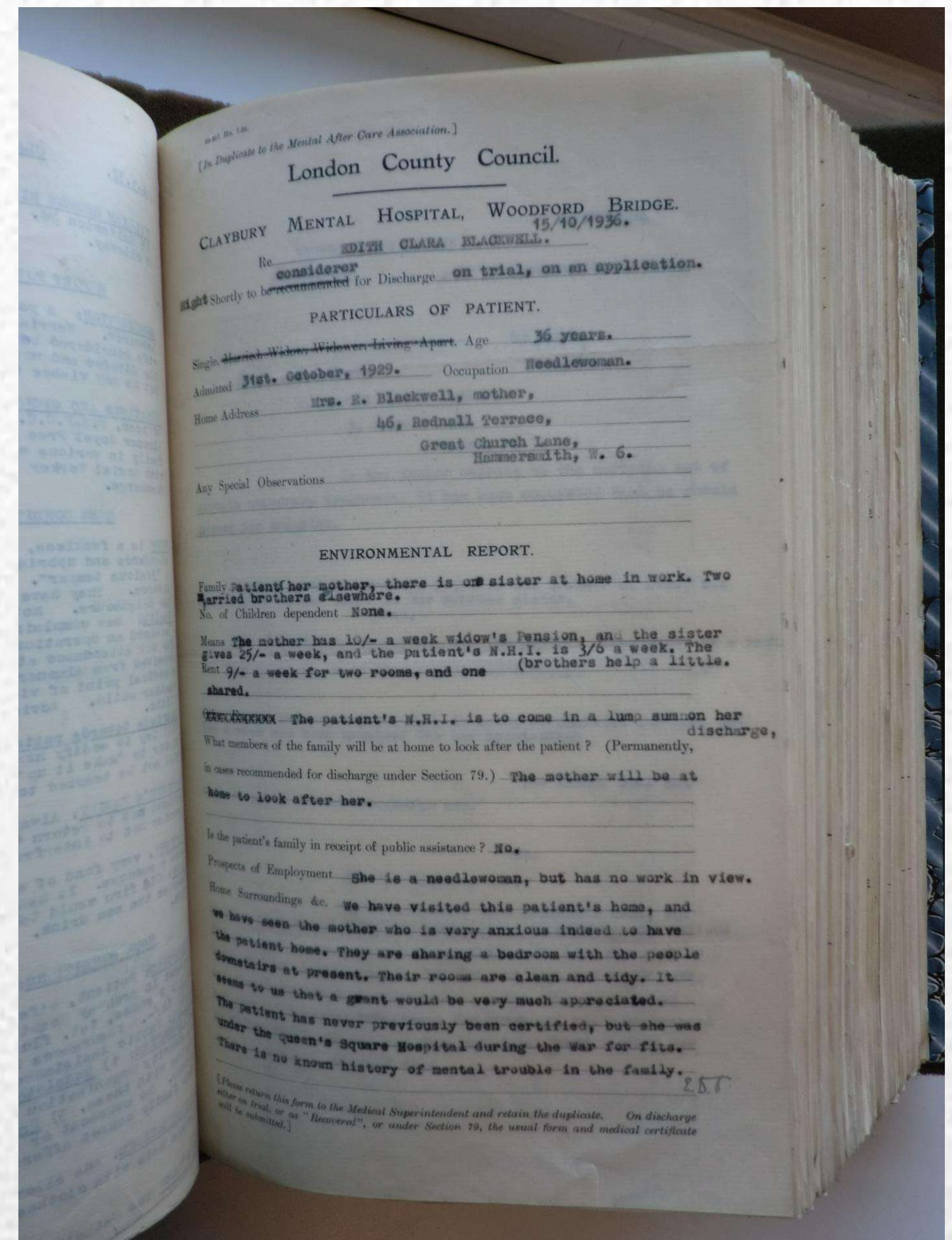
まとめ

精神医学によって精神病者への統治性は貫徹されたか? 患者はこれに受動的だったか?

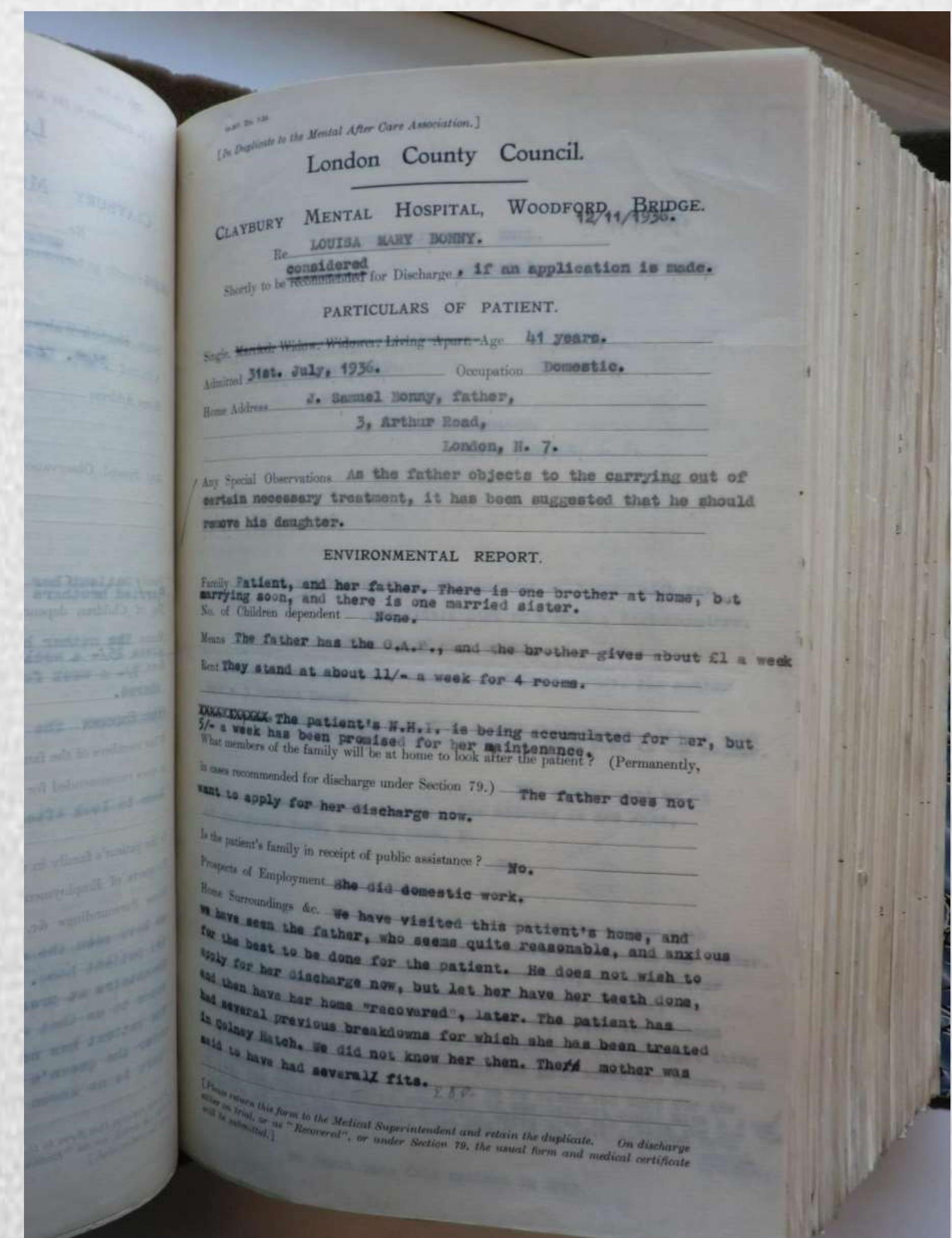
⇒ Yes: より細かな健康と生活の監視ネットワークの形成

No: 個別的な抗い、家族や近隣住民の意向の外在

クライバリ精神病院ソーシャル・ワーク調査報告書例



事例①の調査報告書



事例③の調査報告書

主要参考文献一覧

一次史料(London Metropolitan Archives所蔵)

LCC/MIN/00918-00925: Claybury Asylum: Signed minutes of Committee of Middlesex Justices and of Claybury Sub-Committee of LCC Asylums Committee, Jul.1893-Nov. 1899.LCC/MIN/00940-00965, : Claybury-signed minutes, Jun. 1910-Jul. 1937.
LCC/MIN/00966-967: Claybury; Presented Papers, 1937-42.

二次文献(英文)

Vicky Long, "Often there is a good deal to be done, but socially rather than medically": the psychiatric social worker as social therapist, 1945-70," *Medical History*, Vol. 55, 2011, pp. 225-227.

Roy Porter and David Wright (eds), *The confinement of the insane: international perspectives, 1800-1965*, Cambridge: CUP, 2003.

Eric H. Pryor, *Claybury, 1893-1993: a century of caring*, Forest Healthcare Trust, 1993.

Peter Bartlett and David Wright (eds.), *Outside the walls of the asylum: on "care and community" in modern Britain and Ireland*, London: Athlone Press, 1999, pp. 86-114.

二次文献(邦語)

ミシェル・フーコー、田村淑訳『狂気の歴史』新潮社、1975年